

JOMAの新しい活動を求めて

JOMAの使命と 今後の展望

JOMA 副会長 安海 靖郎

国際化の波は、私達の意識する以上に進んでいるようです。1999年度に海外に出かけた人は2000万人を越え、同年高校の修学旅行で海外に出かけた数は、公立で390校(67,000人余)、私立605校(98,000人)と報告されています。海外在住者も80万人に及ぶそうです。ニューヨークやシンガポールの様に、一都市に二万人を越える所さえあります。

伝道のチャンス

海外と言っても、夫々の国、文化圏によって環境、宗教状況は大きく異なりますが、一般的に海外に住むこと自体が宗教に関心を持ち易く、福音に接し易くなります。それは次のような理由によると言えるでしょう。

1. 時間的に余裕ができる。
2. 生活に生きている宗教との出会い。
3. 仕事、生活上の緊張の中に心の支えを求め易くなる。
4. 日本文化特有の「家」や習慣、宗教の束縛を受けにくい。
5. 家族単位の行動、生活パターンが増

えるため、家族ごと教会に行くことがより可能になる。

今、一年間に海外でクリスチャンになって帰国する人の数が2000人という報告もあります。日本の教会にとって、決して少ない数ではありません。日本人の増加する世界の各都市への日本人伝道の宣教師の派遣と帰国者へのケア、情報ネットワークの必要がますます大きくなっている所以です。

海外日本人伝道への対応、戦略

1. 正確な情報

何よりも正確な情報とそのネットワーク化です。どこの国のどの都市に、どれだけの日本人クリスチャンがおり、どのような活動があり、どれ位の日本人が住み、牧師の招聘が、宣教師の派遣が必要かという様な情報が広く日本の諸教会に伝えられることです。

2. 人材の育成

今、海外で信仰を与えられた人が献身して神学教育を受け、海外に遣わされる良いケースが増えています。しかし、

それだけでは不十分です。すでに奉仕している教職者、神学生、特に海外で奉仕するのにふさわしい経験や賜物を持っている方々が、海外で奉仕する準備、チャンス을設けていくことも大切です。又、今急増しているクリスチャンが海外駐在者の出発前に宣教についての訓練を受けたり、駐在してからも、聖書（神学）通信講座などで、牧会、伝道のノウハウを身につけることは、大変有益なことです。現に仕事のかたわら J C F で、良い働きをされているクリスチャンの方々、宣教師や牧師と共に奉仕したり、又、宣教師、牧師のいない地で、牧師のような働きをしておられます。この為に計画的に準備をするプログラム、宣教訓練センターなどが用いられると良いと思います。

3. 多様な必要への適材派遣

同じ海外でも、状況は異なります。ハワイやグアムの様な観光地での日本人伝道、ビジネス都市、閉ざされた国々（共産主義やイスラム、ヒンズーの強い）の都市、又、ウィーンやフランスの様な芸術家の多い都市、そこに住む日本人、日本人の生活はずいぶん異なります。当然、その対象に応じたアプローチ、伝道方法も異なるところがあるでしょう。中国、インドシナなどの共産主義の国、イスラムの強い国々へは日本語の教師として、又語学留学生として自由に入れます。明確な目的を持って備え、良い協力相手との協力の中に良い働きをされている宣教師の方々も少なくありません。

この様な実情、必要を鑑みて、J O M A の様な媒体を通して、海外の日本人伝道の可能性や必要の正確な情報が共有され、伝達されることが期待されます。又、帰国者へのケアの窓口として、J C F E (帰国者を準備する会 / JCF Equippers) との協力なども大切なことでしょう。■

さらに働き人を

熊井裕作・仁子
アンテオケ宣教会

「米国にも海外から宣教師が必要なのですか。」ときかれる時があります。米国はキリスト教徒が移民した国ですが、今では多宗教の国です。それは欧州からの移民、今は世界各国からの移民が入り、彼らが持ち来る文化、言語そして宗教、加えて米国憲法による宗教の自由で、多種の宗教が存在しているのです。私たちの宣教地、シヤトル市には 1890 年代から米国人信者の協力を得て、日本人教会が数多く創立されました。過去 100 年間に日本人社会に独自の伝道活動をされ、特に戦後は母国日本への宣教を続行されました。現在は一世は高齢化して、教会も三世の時代で日本語伝道も牧師不足の現状です。

私たちは 1980 年からアラスカ州アンカレッジ市で日本人への宣教を開始しました。当時は日本の繁栄時代で、商社員家族、留学生、現地永住者が多く、10 年間の伝道で小さき教会の群れが生まれました。その後、シヤトル市東部地区の日本人社会での宣教に導かれ、商社員家族、留学生などへ福音を伝えてきましたが、バブル経済崩壊により、私たちは「どの方向に進むべきか」を祈り求めました。主は新たな道として永住者や国際結婚者への宣教を示され、私たちの群れが生まれました。

現在は、国際結婚者の夫たちが、英語で夫婦、家族で礼拝出席できるよう努力していますが、二カ国語の教会形成の困難さを経験しています。米国、カナダでの日本人宣教は必要です。米国内には多くの日本人が散在していますが、宣教は（特に教会建設は）困難です。ニューヨー

ク、シカゴ、ロス、ハワイ、シヤトル、ポータランドの大都市にはまだ多くの必要があります。滅びいく日本人の魂のため、お祈り下さい。皆さんの協力により米国、カナダでの宣教は実現されていくでしょう。日本で生涯をかけて働かれた多くの宣教師が退職され、「兄弟、今度は日本から日本人宣教のため、働き人が来るといいですね。」と言われました。心に強く響きました。■

ウィーン

日本語キリスト教会

石川秀和・里恵子
アンテオケ宣教会

公の記録によりますと、初めてウィーンで集会が持たれたのは、6名の方々によって1974年10月と記されています。今から26年も前のことになります。

初めは聖書研究のような事から始まり、家庭集会、現地教会参加、その後、日本語による礼拝と進み、今から15年前にウィーン日本語キリスト教会として名を掲げ、日本語による礼拝が始まりました。その間、巡回で奉仕をしてくださった先生方、諸兄方、テープのメッセージを含めると、実に60名ほどのの方々によって礼拝が守られてきました。

私たち家族が東欧宣教のために、ウィーンに拠点を置いたのは1995年の5月です。その頃まではデュッセルドルフから二ヶ月に一度田辺正隆先生が、ロンドンから盛永進先生が年数回、その他エンゲルモーア先生が時々来るといった形で、その他はテープを前に礼拝が持たれるという、日本では本当に考えられない形で礼拝が守られてきたわけです。今、過去を振り返る時、それは本当に奇跡のよう

です。牧者のいない群れは荒波に何度も遭遇し、涙し、幾度も苦しいところを通りました。

私は東欧の宣教師ですので、どの程度ウィーンの教会に奉仕できるか分かりませんでしたでしたが、ウィーンに残されたわずかな兄弟が一つになり、私を牧師として立て、教会としての新たな歩みが始まりました。その後、毎年洗礼者も与えられ、昨年は6名が受洗し、現在は28名の教会員が居ります。そのほとんどが音楽生ですが、やがて日本で、世界で活躍してくださる事を祈っています。また、この教会は私が東欧の宣教師という事もあり、東欧宣教のため、経済的支援や宣教のため出かけたりしています。

祈りの課題

1. 東欧とウィーンという掛け持ちの働きのため、体力が備えられるように。
2. ウィーンとザルツブルグ集会の祝福のため。

ハワイ州ホノルル

邦人伝道

三橋恵理哉・恵子
アンテオケ宣教会

ハワイ州ホノルルにおける邦人宣教に遣わされて、19年を迎えております。当初から教会形成を目指して、妻と二人だけでしたが、開拓伝道からスタートしました。英語部、日本語部という形に分けないで、国際結婚の家族も一緒に同時に礼拝するというスタイルで今日まで来ています。超教派の単立教会でしかも日本語中心のミニストリーですので、試行錯誤の連続です。最初は地元の教会の協力を頂いて、日曜の午後の時間、礼拝堂を使わせてもらい、礼拝を始めまし

た。その後、ホテルの催し物会場の一室を、毎日曜日有料で借りて礼拝をしました。平日は自宅で祈り会、学生会等の集会をしました。ホテルでの礼拝は5年間続き、その後は元美容室、元ビジネス・スクール等を借りましたが、7回教会場所が移りました。現在は、倉庫を月60万円で借りて教会堂としています。会堂建設は今の一番の課題であり必要です。普段の活動状況ですが、日曜礼拝は70名位の出席です。木曜と金曜に開催している親子教室には、40組の親子が参加していて、ほとんどが未信者です。また、ゴスペル・フラ、家庭を開放してのティータイム、食事付きバイブルスタディ、教会堂の一部を使用して日本語キリスト教書店を経営したりしています。ラジオ・テレビ伝道も行なっています。

海外では、とにかく日常の生活レベルで接触できるメリットがあり、引越しの手伝い、家探し、病気・事故に伴うケアや通訳、時には刑務所にも行きます。ハワイという土地柄から、旅行での来客も多く、その接待は私たちのミニストリーの内、かなりのウェイトと占めています。

日本人宣教の課題としては、国際結婚をされた方々へのケアをはじめ、引退後、ハワイに暮らす人、リハビリ目的で来られる人等、新しいタイプの移住者への取り組みが求められています。■

JOMAの目的と事業

日本の福音的諸教会の海外宣教部門、並びに、そうした諸教会の背景とした宣教団体が、共通の領域での協力をはかり、将来のさらに効果的な海外宣教のあり方を求めることを目的とする。

規約第4条



グリニッチ

米国／コネチカット州

近藤 泉・美貴子
LMI 世界宣教会

世界経済の中心ニューヨーク、そのニューヨークのベッドタウンの一つであるグリニッチ。ニューヨーク市の中心部から東北に車（電車）で40～50分のところに、グリニッチ福音キリスト教会があります。ニューヨーク周辺には6万人弱の日本人が住み、私たちの教会から30分以内に約2万人の日本人が住むと言われています。米国の西海外とは逆に、この地域に住む日本人の7割以上は短期滞在（2～5年）の駐在員とその家族です。こうした人口構成がそのまま私たちの宣教の働きを特色づけております。

この地域に住む邦人は、日本の宗教的習慣、人間関係のしがらみから解放されて、より自由に真理を追求し、福音に心開かれやすい状態にあると思います。私たちの教会では新たな人々に福音を伝えるために家庭集会、ビジネスマンのための聖書研究、料理教室、特別伝道集会、子供のための集会等の多種多様な活動を通して、宣教の働きを進めておりますが、毎年数名の方々が受洗に導かれております。

日曜日には現地の教会を借りて、日曜学校、礼拝が行なわれ、大人こどもあわせて毎週30～40名ほどが集まっております。教会員のほとんどが駐在員であるため、流動が激しく、約3～4年でメンバーが完全に入れ替わってしまうという状況です。近年、少しずつ永住の方々が加えられておりますが、流動の激しい傾向は今後も続いていくことでしょう。そのために、教会として経済的に自立する

ことは難しく、日本からの永いサポートを必要としております。

一方では、ここで導かれた人々をみ言葉によって養い、訓練し、母国に送り出すという「タンポポ・ミニストリー」のビジョンが与えられております。主の祝福がグリニッチだけに留まらず、日本に向かって流れ出していくことを目標としております。■

共に喜ぶために

横山 基生・好江
OMF宣教師

英国在住日本人の数は、アメリカ、ブラジルに次いで世界第3位です。その数は6万人弱ですが、日本人教会／集会の数は決して多くはありません。この背景に、日本人移民の歴史はないこと、日本人クリスチャンの多くが地元の英国人教会への礼拝出席を選ぶこと、また、一般の日本人も英国に来たのだから、まず英国人の教会に行ってみたく考えることが挙げられます。このような中で、在英日本人宣教会は英国人クリスチャン・教会による日本人伝道との協力という重荷を与えられました。私達の具体的な活動は、英国各地における日本人伝道に関わる人のネットワーク作り、効果的日本人伝道についての啓蒙、日本語のクリスチャン文書・ビデオの提供・貸出、英国各地の日本人クリスチャン・求道者のケア、帰国者への教会紹介と帰国後のケア、英国へ行く日本人への英国各地の教会紹介、英国と日本各地でのリトリート開催（帰国者間のネットワークの拡充のため）等です。海外日本人宣教の祝福の鍵は、海外で芽生え／成長した福音の種が教会の交わりの中で成長し続けるよ

うに、一人ひとりの魂に適切に関わり続けること、そして、同じような働きをしている団体・個人が手をつなぎ、魂のケアのネットワークや情報を共有し、有効利用していくことかと思えます。現在、私達は英国への宣教師ビザ取得困難の只中にありますが、その解決のためにOMFインターナショナルの交わりに導かれました。在英日本人宣教会とOMFとの協力体制ができたことは、主の大きな計らいです。在英日本人宣教会も近々在欧日本人宣教会となり、より広く欧州各地で行なわれている働きと手を結ぼうとしています。「蒔く者と刈る者がともに喜ぶ」（ヨハネ4：36）ためにさらにネットワークを広く太くする働きを進めさせていただきたいと願っています。■

テキサス州ヒューストン

日本人教会開拓

佐藤 恵一・一枝
基督兄弟団

1995年から、テキサス州ヒューストンでの日本人教会開拓の働きを中心に、各地に点在する日本人に宣教しています。

ヒューストンは石油産業を中心に米国南部のビジネスの拠点として、日本からも企業の進出も多く、日本人社会は焼く2500人、大半が一時滞在（4～5年）の企業派遣の駐在員とその家族、医療関係の研究者、留学生、定住者はほとんどが国際結婚の婦人たちという構成です。

ヒューストン以外の州内の各地でも集会を持っています。クリアレイク、ミッドランド、ダラス学生集会。フロリダ州のジャクソンビルでも奉仕しています。

ヒューストンでの働きも6年目に入りました。日本では福音を聞く機会が無かった方々がアメリカで福音を聞き、イ

エス様を信じて変えられています。ある方はその福音を携えて日本に帰り、ある方は留まって日本人社会で主を証しています。このすばらしい主の働きに携わらせていただいている恵みを感謝し、主の御名を讃美します。

お祈りください。

* 聖霊さまの導きの中で満たされて奉仕することができるように。

* 健康で主に仕えることができるように。

* 帰国者のフォローアップができるように。

* 学生として英語を学びながら、日本人留学生に重荷を持って伝道する奉仕者(短期でも)が与えられるように。■

日本語を用いて・・・

平瀬 義樹・光世
イムヌエル総合伝道団

今、台湾の都市の街角を歩くと、いくつかのことに気が付きます。その一つは、日本のものが氾濫しているということです。テレビやインターネットなどの普及により、日本の流行がいち早く流れ込み、ものすごい勢いで浸透しています。そしてその影響からか、多くの若者が日本に関心を持ち、日本語を学んでいます。

二つ目のことは、台湾では案外、日本語が通じるということです。街角や公園などで佇むお年寄りの多くは、戦前の日本語教育を受け、中には教育勅語をそらんじている方もおられるほどです。流行を追う若者とお年寄り、これらの方々は日本語を話すことができるのです。

そんな中、私たちは日本語を用いて、台中に住む在留邦人、日本語のできる台湾人を対象に働きを展開しています。また月に一度、台南においても集会を守っていま

す。私たちがこの働きを引き継いで、はや2年、その間、教会の顔ぶれが、少しずつ変化してきました。何組かの邦人家庭を日本に送り出し、神様の恵みと憐れみによって、その穴を埋めるような形で、少しずつ新しい方々が加えられています。最近の礼拝では、日本人よりも現地の台湾人の方が多い時もあるほどです。これらのことの中に、神様の不思議なお導きがあるような気がします。これらの方々に、日本語を通して、聖言を伝えているというのが、今の教会の働きです。相互の言葉の理解と神様の聖言がひとり一人の心に届きますように、お祈りください。

そのようなわけで、私たちの教会では、日本語や中国語、時には台湾語が飛び交います。このユニークな特徴の中に、神様からのすばらしい恵みを感じています。言葉や文化、習慣の違いを越えて、主を愛する者たちが一つ所に集まり、同じ主を讃美し、お互いの交わりを深め合い、信仰を高め合うことができるこの特権を神様に感謝しています。■

JOMA 世界宣教地図 (定価一枚¥200.-)

皆様の教会では、教会掲示板に「JOMA 世界宣教地図」が掲載されていますか。もし「JOMA 世界宣教地図」が掲げてなかったら最新版を買い求めて、掲示板に「JOMA 世界宣教地図」をどうぞ。是非とも世界宣教のために「祈りの手を！」。

教会の掲示板に

JOMA 世界宣教地図

は、掲示されていますか。

JOMA 総会報告

新規加盟団体の紹介

チャーチ・オブ・ゴッド

日 時：2001年4月16日（月）
場 所：御茶ノ水 OCC ビル 4F
セミナー：「世界宣教活動におけるコン
ピューターの可能性と危険性」
講 師：コンピューター聖書研究同好会・
能城一郎師
議 事：

1. 2000年度事業報告
2. 2001年度事業案・予算案
3. 新規加盟二団体の承認・紹介
4. JEA 世界宣教委員会の提唱による
2003年の「世界宣教青年大会」
開催の件に関して
5. 規約、細則改定 細則（3）
 - ・現行：「加盟希望団体は、その旨
を書面をもって役員会に申し出
るものとする」
 - ・改定：（以下を追加）
 - a 役員会は、加盟申請書を受
け取ったなら、役員会としての
判断を示し、その結果を、申請書
ならびに提出された他の資料と
ともに会員（加盟団体）に送付し
て、各団体の意見を聴取する。
 - b 会員から反対意見、ないし
疑義が提示されなければ、役員
会の決定を次年度総会において
追認することとする。
 - c 会員から文書によって十分
と思われる理由とともに反対意
見、ないし疑義が表明された場
合には、役員会の判断を白紙に
戻し、次年度の総会に諮って、そ
の議決に従って正式に決定する。
そして、その結果を加盟希望団
体に通知する。
6. 役員団体改選

海外宣教部

担当者：橋本 幸夫
事務所：210-0025
川崎市川崎区下並木 66
電 話・ファックス：044-233-3648
宣教師：阿部和子宣教師、ジーン・イーズ
宣教師の2名。
歴 史：1981年から2001年まで。

- ・第1次は、メキシコの小さな田舎町イエ
ラで宣教に従事。第2次から第5次の
現在まで、メキシコのグアダラハラ市
での宣教に従事している。
- ・活動内容は、ACE スクールを中心とす
る教育宣教で、現在の生徒数は100名を
はるかに越えている。
- ・その他、メキシコのチャパス州や南米
エルサルバドルの救援活動に積極的に
当たっている。

OM 日本

オペレーション・モービライゼーション
総主事：酒井 信也
事務所：920-026
石川県河北郡内灘町大根布 8-100
電 話・ファックス：076-282-6454
電子メール：omjapan@nsknet.or.jp
歴 史：高校生時代、一婦人の祈りによっ
てキリストに導かれたG・パウワー師
によって創設。二隻の福音号ロゴス号
とドゥロス号に大量の文書と伝道スタッ
フを乗せ、世界に福音を届ける働きに
従事している。
宣教師：短期宣教師を含めて、多くの宣
教師を世界各地に派遣している。

世界宣教青年大会

JOMA 役員会

2001年4月16日(月)、お茶の水O Cビル4F会議室において、2001年度のJOMA総会がもたれ、役員担当団体が選出されたが、総会后しばらくして開催された役員会において、以下のように、2001年度の役員担当が互選で決定された。

- ・会長：牧野 直之・OMF
- ・副会長：飯塚 俊雄・日本イエス
- ・書記：佐々木正明・AOG
- ・会計：中村 一義・東洋ローア

また「宣教師ハンドブック」を改訂増補し「世界宣教ハンドブック(副題：宣教を志す方々のために)」と改め、「25周年記念大会」の記録を合本にして発行する事業の進行状況が報告された。

事務局は変わらず

- ・坂庭 裕子・本郷台キリスト教会
 - ・平位 全一・インマヌエル
- が担当しますので、よろしく。



発行：海外宣教連絡協力会
発行者：牧野 直之
住所：244-0842
横浜市栄区飯島町2441-10
Tel.045-891-7769
Fax.045-894-2121
郵便振替：海外宣教連絡協力会
00160-7-106631

大会日程：2003年8月14日(木)
—16日(土)

大会会場：未定

大会理念：イザヤ6：8に基づいて「教会から派遣され、世界の教会に仕える」

大会目的：21世紀の宣教を切り開くクリスチャン青年が、福音の豊かさを知り、世界宣教の現状とみことばから宣教のビジョンを頂き、主からのチャレンジを受け止め、地域教会に仕え、世界宣教の担い手となること。

大会目標としてあげられている事柄：

- ・次代を担う献身者がおこされる
- ・リーダーシップの継承と育成
- ・出席者が地域の教会を活性化する
- ・牧師の覚醒
- ・同世代クリスチャンの交わりを築く
- ・福音の普遍的な力を知り、教会の国際性を体験する
- ・キリスト教界の中での青年の役割の強化
- ・青年宣教会議の実現
- ・宣教の方策、方向付け
- ・社会の中で福音に生きる
- ・世界/社会における青年の役割を知る
- ・聖書信仰の再認識

今後、心にとめなければならないと思われること：

- ・どうしたら青年へのチャレンジと教会の活性化を計ることができるか
 - ・困難であったとしても、青年と教会の両方のオーナーシップを大切に推進してゆく
 - ・青年が自発的に活動していく組織や機会、意見の吸い上げの方策
- (以上は、JEA世界宣教青年大会実施基本計画)から転載しました。JOMAは、現在、JEAの協力会員として、JEA世界宣教委員会と関係を深めつつ活動しようとしています。)